絵具遊び活動の中間成果展覧会

本展覧会は教育学部門が進めている第 3 期中期計画附属校園共同研究「絵具遊び活動に関する実践的研究―学部教員と連携した幼児教育プログラムの開発―」の一環として中間成果を発表するものである。

幼稚園教育要領に示されているように、幼児の豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするためには、一人ひとりの子どもの「自分なり」の感じ方を認め、それを立脚点とした保育を考えることが重要である。そこには保育者の意図的な働きかけや環境構成が必要であるが、幼児の「表現」の保育指導に関して、幼児が創造的に表現することへの援助が大きな課題とされている。

本研究は、幼児が主体となり巨大な紙やモニュメントなどを支持体として、全身を使って絵具遊びを行う活動を主としている。教育学部門の油彩画、日本画、グラフィックデザイン、教育心理学、教育工学の教員と附属幼稚園が連携した絵具遊びプログラムを企画・実施し、附属幼稚園ならではの幼児期における新たな活動プログラムとして提案し、幼児が素材の色、形、手ざわり、動きなどについて気づき、それを表現する力を養うための教育プログラムを開発することを目的とする。

本展覧会では絵具遊びをする中で、附属幼稚園の園児たちが混色した絵具を用いて、和紙に自由に描いた作品を額装して展示する。額装することによって、作品としての独自性と説得力が加わり、作品の魅力をより感じてもらえることを期待したい。

今後は、絵具遊び活動を通して、創造性や表現力を育む上で重要な概念を抽出し、特定の場面の観察研究や実験的研究に発展させていくことを計画している。また上記の事例研究、観察研究、実験的研究の成果をまとめ、幼児期における画期的な絵具遊び活動プログラムを提案できるよう共同研究を進めていく予定である。そして、それらの成果をまとめ、地域のモデルとなる幼児期の絵具遊び活動プログラムを提案する計画である。

研究代表：　玉瀬友美
研究分担者：土井原崇浩　野角孝一　吉岡一洋　野中陽一朗
谷脇のぞみ　岡谷里香　森下英恵　都築郁子